

DESIGN SALON

●ADA展<打ち上げ>第2回デザインサロン

日時/2009年1月17日(土)
場所/デザインギャラリー

2009旭川デザイン協議会
会展の開催に伴い最終週
の土曜日に打ち上げの第2
回サロンが催されました。
会員・学生ともども、多
方面のデザイン分野の方々
との交流の場となりました。



意欲あふれる学生会
員たちに自己紹介を
して頂きました。



冬の開催が多い
ADA展ですが、会
場周辺の寒いイメ
ージを取り払うイ
ルミネーション設
置でロマンチック
で効果的な演出と
なりました。

CHAIR? GALLERY

食を演出する椅子とフラットウェア展

「食」をキーワードに、織田コレクションの中からダイ
ニングチェアとして使うことのできる椅子を採り上げ、
併せて同氏の収集している美しい日用品の中からナイ
フやフォーク、トング、サーバーなどフラットウェアも
展示いたします。



2009年3月7日(土)~8月2日(日)
11:00~17:00 (4月30日)
10:00~18:00 (5月1日)

休館日/毎週月曜日
入場無料
主催/旭川デザイン協議会、織田コレクション協会
協力/旭川家具工業協同組合

CHAIRS GALLERY 第21期企画

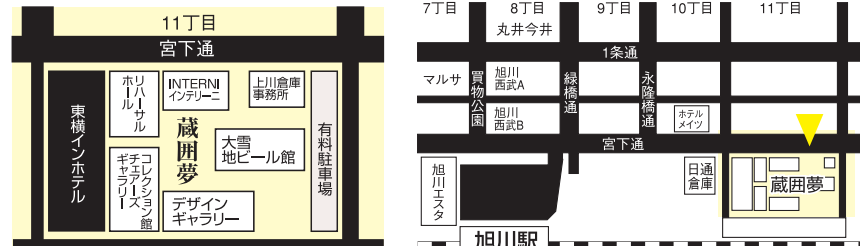
ご来館のお客様へ 支援金のお願い

コレクション館は、基本的に入場無料ということで開放しておりますが、
昨今の経済情勢等により、維持管理が厳しい実情にあります。つきまして
は御来館者の寄付を頂き運営の一助といたたく支援金を呼びかけています。
何卒、御理解を賜り、ワンコイン程度のご協力をお願い申し上げます。

デザインギャラリー

- WE LOVE HOKKAIDO ポスター展4月28日(火)~5月10日(日)
- 第5回日本画展5月12日(火)~5月17日(日)
- 墨原社臨書展5月19日(火)~5月24日(日)
- 我楽須工房ステンドグラス展5月26日(火)~5月31日(日)
- 名流いけ花展6月 2日(火)~6月 7日(日)
- そめ花「薔薇とヴーケ展」.....6月 9日(火)~6月14日(日)
- 旭川工芸デザイン協会展.....6月16日(火)~6月28日(日)
- 第21回歩道展6月30日(火)~7月 5日(日)
- 第7回北海道前衛書展.....7月 7日(火)~7月12日(日)
- 第31回天新書展7月14日(火)~7月19日(日)
- 旭川広告デザイン協議会展.....7月21日(火)~8月 2日(日)
- 絵付けガラス展.....8月 4日(火)~8月 9日(日)
- TOSHIKO展8月11日(火)~8月16日(日)
- 染め三人展8月18日(火)~8月23日(日)
- 第33回北海道七宝作家協会展・移動展8月25日(火)~8月30日(日)
- 理創夢工房陶芸展.....9月 1日(火)~9月 6日(日)
- 建築・スペース展2009.....9月 8日(火)~9月13日(日)
- 祭(まつり)9月15日(火)~9月20日(日)
- 第9回建築家展9月26日(土)~9月27日(日)
- 第32回記念旭川墨人展9月29日(火)~10月 4日(日)
- 第21回習作展10月6日(火)~10月11日(日)
- フラワーデザイン展10月16日(金)~10月18日(日)
- 2009絵布の会パッチワーク・キルト展.....10月22日(木)~11月 1日(日)
- アトリエ・デシモーネステンドグラス作品展.....11月 3日(火)~11月 8日(日)
- 第18回教職員文化展11月10日(火)~11月15日(日)
- 第2回群像舎書展11月17日(火)~11月22日(日)
- ステンドグラス展11月24日(火)~11月29日(日)
- 写真道展巡回展12月 1日(火)~12月 6日(日)
- 道写協旭川支部展.....12月 8日(火)~12月13日(日)

旭川デザイン協議会
〒070-0030 旭川市宮下通11丁目
上川倉庫「蔵開夢」コレクション館内
TEL.0166-23-3000 FAX.0166-23-3005
E-mail=ada@hokkai.net
HP=http://potato.hokkai.net/~ada/



2009 Vol.19
発行日/2009年5月吉日
発行/旭川デザイン協議会
発行責任者/小林 謙
編集スタッフ/勝浦燕子・池本裕治・上田政夫・下出敏男
山口なぎさ・黒瀬久子・田辺弘



DESIGN NEWS 43° Vol.19
旭川デザイン協議会会報

ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION



写真 「旭川ポリフォニー,2008」 森のコンサート

「旭川ポリフォニー,2008」を開催して

[旭川ポリフォニー,2008]実行委員会事務局 秋本 いずみ

“旭川を元気にしたい！”との想いから企画

昨年10月、旭川とその周辺地域で「旭川ポリフォニー, 2008-森 空気 感性」と題した国際フォーラムを開催いたしました。音楽用語で“多声楽”を意味する“ポリフォニー”は、内外から各領域の人たちにお集まりいただき活発に交歓していただく国際フォーラムを象徴し、また“森 空気 感性”というサブテーマは、北海道・旭川の森や木がある自然に直に触れ、自分の身体を通して身の回り、そして時代の雰囲気をつかえようとする意味が込められています。グラフィック、彫刻、建築等、多岐にわたって活動を展開されている矢萩喜徳氏を総合ディレクタ



東川町の森での植樹

ーに、東海大学芸術工学部の小林 謙教授を実行委員長に、企画が進められました。

企画されたきっかけは、“旭川を元気にしたい！”との想いから。その想いのもと、地域の企業8社と東海大学北海道キャンパスのご協力をいただき、この国際フォーラムが形づくられました。フォーラムは2日間の日程で行われ、初日は東川町の森の中でのコンサートとミズナラ1,000本の植樹で幕を開けました。その後はロワジールホテル旭川にて、国内・外より多岐に渡る分野の方々による講演、対談が行われ、講演者とご来場いただいた方々との知の交換の場となりました。2日目は、初日に森の中で歌声を響かせてくれたスウェーデングラミー賞受賞のアーティスト、ソフィア・カールソンさんとそのバンドメンバーによるコンサートがロワジールホテルにて行われ、澄んだ歌声と記憶に残る感動の中、幕を閉じました。

2日間で約3,000名もの皆様にご参加いただき、様々な人・領域と交歓いただけたことは、旭川のこれからの元気につながったのではないのでしょうか。皆さまからのご意見の中で、「旭川でなければできなかった」というものが数多く聞かれました。そこにこそ開催のきっかけとなった想い、“旭川を元気にしたい！”の答えが隠れているのではないのでしょうか。

開催後には、本フォーラム実行委員長であり旭川デザイン協議会会長の小林 謙氏などをお招きし、「旭川ポリフォニーを考える会」を開き、今後どのような形で旭川の活性化につなげていけるかを話し合う場を持ちました。今年に入り、より加速度を増す世界的な景気低迷の影響は当然のように旭川にも及び、そんな状況下で考えられる形と可能性を模索していきたいと考え

ています。

さて、最後に大変嬉しいトピックス。フォーラムのトリを飾っていただいたソフィア・カールソン バンドの皆さんですが、「旭川ポリフォニー, 2008」を通して旭川が深く心に残ったようで、後日「旭川の星」という曲を制作されました。滞在期間中に常盤公園を訪れ、その際にメロディーが浮かんだそう。スウェーデンでは収録アルバムが今年3月に発売され、今後日本でも発売予定とのこと。このようなつながりが、また少し旭川を元気にしてくれる気がいたします。



東川町の森での植樹



森のコンサート



ロワジールホテルでの講演



森のコンサート



ロワジールホテルでのコンサート(ソフィア・カールソン バンド)

2008年度のADA活動を振り返って

旭川デザイン協議会会長 小林 謙

今年も会報へ所感を送る時期になった。気がつけばこの会の活動も10年を超え（1999年4月設立）、長期にわたり活発な活動を続けてこられたのは、ひとえに会員の皆様、及び関係各位の熱意と努力によるものと深く感謝している。

2008年度の活動

2008年度も、多彩な行事が続いた。春、4年目となった「デザインマンス」では、家具の国際イベント「IFDA」をはじめ、デザインギャラリーや東海大学などを舞台に「くらしのデザイン展」など多くの展示会やセミナーがあり、道立旭川美術館による「旭川圏発木工Power」や、学生らが中心になった買物公園の「私の店の一押しグッドデザイン展」のような新しい展開もあった。「三都市+1デザイン交流会議in旭川」、その際のセミナーや最終日の陶芸の里散策も盛況だった。また2009年1月の、「旭川デザイン協議会展」では、会員によるワークショップが開催され、人物デッサン、ステンドグラス制作、フラワーアレンジ、MY着制作などに、予定を大幅に上回る参加者があった。他に各団体主催の展示会や折々のデザインサロンなど、振り返ると多くの会員による大変な努力の連続があった。デザインギャラリ

ー・コレクション館の入場者も一昨年より増え、ここ数年安定した数で推移している。2008年度全体を俯瞰すると、国際的でありながら地方的な視点をもち、専門的でありながら市民生活につながり、文化的でありながら経済活動へつながる、など多面的な「デザイン」の会としての役割を果たしてきたと思う。

地方文化の危機

会が発足した1999年は、その2年前の1997年11月の拓銀の破綻、1998年の日本長期信用金庫と日本債券信用金庫の破綻など日本列島総不況という、大変危機的なムードだった。十年後の今、私たちはそのとき以上に深刻な事態に直面しているのは間違いない。世界的な経済不況の中、旭川でも中心市街地から活力が失われてゆく。経済だけでなく、少子高齢社会が加速され、地方都市から若者の姿が少なくなってゆく。未来の担い手が自信を失い弱腰になり、旭川の文化を創造し、ここにしかない良いモノを生み出す力が衰えてゆく。そういった危機を持ってしまふ。

曲がり角のADA

我々の活動は、見事に産官学の力を集めながら多彩な活動を繰り広げて来た。一方、昨今の深刻な状況を背景と

してこの会を見ると、私たちがCHANGEの時を迎えているように思う。会の活動は、ほぼ設立時から頑張っている人々の意気に支えられており、なかなか新しい参加者、幅広い年代層が活躍するようになってこない。企業内の人材が参加しやすい環境づくりや、学生事業部の活性化のような、次世代の発掘の取り組みが必要である。そうして自信を持って「北海道オリジナル」の創造に向かいたい。昨年10月の「旭川ポリフォニー2008」が示唆するもの、「中央に対する地方」でなく、「私たちが中心である」「ここに中心を創造する」といった意識が大切であろう。



2008年度旭川デザイン協議会展



会員による各ワークショップ
(2008年度旭川デザイン協議会展)

コレクション館事業部は、2008年度の活動として、チェアーズギャラリーで3つの展示会を行いました。

(1)「北欧の巨匠に見るデザイン～ノルウェー&スウェーデン～」

会期 2008年2月26日(火)～7月27日(日)

内容 北欧シリーズの第3弾の展示を実施。2カ国のデザイナーにスポットを当てました。

(2)「ユニークチェアーズ」

会期 2008年8月2日(土)～2009年2月15日(日)

内容 素材、構造、技、遊び心の4つの視点でセレクトした椅子を展示。ギャラリートーク(8月23日) 織田先生によるトーク

(3)「食を演出する椅子とフラットウェア展」

会期 2009年3月7日(土)～8月2日(日)

内容 食をテーマに、ダイニングチェアやフォーク、スプーンなど各種カトラリーを展示。

2008年度の展示については、織田コレクションを中心とした椅子の展示であることは変わりませんが、昨年6月のデザインマンス開催時に、ガラス製のショーケースがお目見えしました。これによって、椅子だけではなく食器やカトラリーなどの貴重なコレクションの展示が可能となり、展示のバリエーションが広がりました。現在はヴィトラ社のミニチュア椅子を中心に展示をしており、質量共に北海道一の品揃えを誇っています。

また、昨年8月には織田先生によるギャラリートークを開催して40名近くの参加者があり大変好評でした。今年もデザインマンス開催時に合わせてトークが実施できればと考えています。

さて、今回の課題としては、展示準備に際して人手が不足しており、お見苦しい展示が続いている事があげられますが、次回展示はしっかりと準備作業を進めていきたいと思っています。

また、余談ですが、新潮社の「芸術新潮2008年10月号」にチェアーズギャラリーを取材していただきました。旭川の家具工房を巡るページの中で少しだけ扱っていただきましたが、その時開催していたユニークチェアーズの会場がよい雰囲気で紹介されていたのが印象的でした。ちょっとだけ宣伝に貢献できたかなと思っています。



「ユニークチェアーズ」・「ギャラリートーク」



「食を演出する椅子とフラットウェア」



前向きに、楽しく。

2008年度のADA展は「旭川デザイン協議会展・ウィズ・ワークショップ」として、2009年1月6日(火)～21日(水)の期間中、デザインギャラリーにて開催されました。

テーマは「モノづくりのおすそわけ」。今回は市民の方々とADA会員との交流を通じて、「旭川発のデザインとデザイナー」を身近に感じていただくことを目的に、【人物デッサン／講師:井上隆也氏】、【スタンドグラス制作／講師:城台幸子氏】、【フラワーアレンジ／講師:丹野尚美氏】、【MY箸制作／講師:吹谷眞一氏】と、4回のワークショップと会員の作品展示とを併せて会場を盛り上げました。

期間中、631名ものご来場をいただいた上、今回のワークショップは真冬の寒い時期にも関わらず、多数の市民の方々に参加いただいたことで、目的としていた成果は得たものと思います。

しかしながら、今回このADA展に事業部担当として参加させていただいたことで、たくさんの課題があることも感じました。展示会そのものの企画内容をはじめ、参加意識の低下、時期的なものなど……さまざまな理由や妥協から年々展示会そのものがさびしくなっているように感じました。

でも、それでは見ていただける地域の人たちにデザインの「楽しさ」や「美しさ」は伝わりません。個々のチカラだけで限界を超えていくことは難しいけど、それぞれ経験も分野も違うクリエイター同士が集まって、自分の持てる能力や技術を持ち寄れば、できることの可能性はもっと広がると思います。たとえば、紙があって「この紙で何かしてください」と言われたら、紙に文字や絵を描くことから始める人が多いと思います。でも、紙をびりびりに破いて本のしおりにしてみたり、クシャクシャにして広げたもの

を電気に包んで照明にしてみたり、そこまでやる人は少ないと思います。その一歩を超える自由というか、制約を逆手にとって自由になれる瞬間があることを多くの人に知ってもらえるよう、みんなでチカラを合わせてがんばれば、もっと展示作品数も参加者も増え、見る側も楽しめる展示会になると感じました。

世の中を明るくするクリエイティブというのは、誰かが明るくしてくれるものではなく、みんなが集まって、みんなでおもしろいことをやっていこうという姿勢から生まれるものだと思います。こんな時代だからこそクリエイターが元気に、前向きに、楽しく活動できるようがんばって行ければ、新たなADA展へと繋がられるようになるはずですよ。

さあ〜っ!来年度はみんなで楽しく元気にがんばりましょ〜!



ワークショップ【フラワーアレンジ】



ワークショップ【MY箸制作】

交流事業部では、会員相互の交流と情報提供を目的として活動しています。年度ごとに数回の交流サロンと特別企画1回を目処に交流事業を進めています。

2008年度は、旭川で開催された「三都市+1デザイン交流会 in 旭川」の催事として旭川ターミナルホテルで行われた、各会員間交流事業に、交流事業部として主体的に参画しました。

また、交流サロンについては、初回は2008年8月23日(土)のチェアーズギャラリートークに併せて開催し、20名程度の参加者がありました。2回目は2009年1月17日(土)の「旭川デザイン協議会展」に併せて開催し、30数名の参加者がありました。

特別企画としては、デザイン協議会会員および支援して下さった市民との交流を目的として、「Chatting plaza for thanks」を企画・実施しました。これは、コレクション館「チェアーズギャラリー」内のテーブル席を活用していた

だき、会員間もしくは会員と同伴いただいた方々との情報交換を支援する事を目的として実施したものです。この企画を実施した2009年2月20日(金)～3月15日(日)の期間、常設の自動販売機利用負担金等の助成を実施し、数十名の利用者を得ることができました。各交流事業への参加者および開催の協力者に感謝を申し上げます。

過去の特別企画は演奏会を伴う交流会形式が多く、参加者の評価も高い事から今年度も企画しましたが、演奏者との日程調整に難航し実現には至らなかったのが残念です。次年度に向けた活動においては、参加者増と実のある開催に心掛けたいと、気持ちを新たにしております。



交流サロン風景



交流サロンでの学生の自己紹介

●受託事業として、旭川地域マーケティング支援事業実行委員会より、「FOODEX JAPAN 2009 ブースデザイン等一式」を受託しました。

●また、三都市+1デザイン交流会 in 旭川の開催期間中は、IFDA&産地展の見学、東海大学芸術工学部准教授の藤森 修先生をお招きしての講演会、嵐山展望台や陶芸の里の散策などを行いました。この二日間のスケジュールはかなり中身の濃い内容であったと思います。

ホスト役の旭川の事業部員のひとり

として、色々段取りを致しましたが、遠くから参加された三都市の皆様が笑顔でお帰りになられたのが何よりの安心でした。



嵐山陶芸の里散策



藤本 修氏による講演会

2008年度の活動

●2008年8月 会員名簿発行

●2009年2月28日(土)第25回デザイン塾「デジタルデザインの世界vol.25」
2時間×2回

テーマ「デジカメ画像の加工の極意」
(Photoshop Elementsを使用して)
撮影した デジカメ画像に文字や違う
画像との合成などを体験

●2009年3月28日(土)第26回デザイン塾「デジタルデザインの世界vol.26」
45分×5回

テーマ「出張デジテラ個人レッスン」
持ち時間1人45分でマンツーマン指導

総務事業としては、年度当初に事業部会を招集しましたが、部員の集合が芳しくなく、少人数による事業計画づくりとなりました。具体的には、名簿制作とセミナー企画、会員増強が総務部会の事業項目になります。実行プランとなると担当会員の個人能力に依存することも多く、丸投げをしてもある程度運営できる部分もあったりするので、突っ込んだものとはなりません。

セミナー企画については、レギュラーとなっている松澤会員のデジテラだけでなく、他のデザイン分野も視野に入れた企画ができないものかとの話もありました。残念ながら今年度は具体化できず、予算も限られていましたので、最終的には2回のデジテラということで完了しました。

会員増強の件に関しては、予算措置も想定にないので、部員の人海戦術(勧誘・紹介)に頼るのが実情です。告知ということになれば広報事業部のホームページ上での募集アピールが考えられましたが、ホームページ自体も永らく定型化が続いており、刷新の時期にあるかもしれないとの話がありました。ホームページを事業告知、施設紹介に止まらず、旭川を含めた業界のデザイン動向のような、デザインに興味のある人が頻りに訪れたい情報発信があれば、対外者とも接触の機会が増えるのではとの意見がありました。具体化はできませんでしたが懸案として次年度につながる提案だと考えます。



2008年度の活動一覧

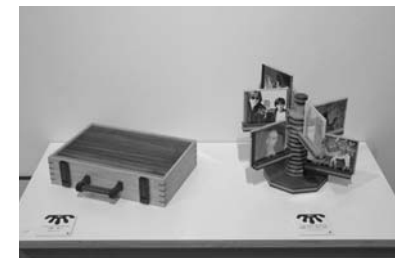
●2008年度 旭川デザイン協議会展(1月6日~1月21日)への出展
単独出展(3点)、複数での出展(3点)を出展した。

●イベントへの参加

「国際家具デザインフェア旭川2008」、「旭川ポリフォニー、2008」、「ASAHIKAWA DESIGN CAMP 2009」等 2008年度に旭川で開催された各種デザイン関連イベントへ参加した。

●イベント補助

「2009 旭川デザイン協議会展 ウィズ・ワークショップ」(1月6日~1月21日)等 旭川デザイン協議会展関連イベントへ補助活動を行った。



れている。しかし、大学生会員の加入者数が今年度も伸びなかった。

第二の目標は、旭川で開催されるイベントへの参加とその手伝い作業を積極的に行うことであった。イベントへの参加については、学生個人レベルでの参加、出席の実績はあったものの、学生会全体としての活動には至らなかった。しかし、学校別に見れば、高等技術専門学院の学生は、ここでも先生方と協力し積極的に活動を行っていた。

2009年度については、学生事業部全体での事業計画・実施などが望まれる。学生会員の加入者数が伸びない原因は、東海大学を例にとれば、積極的な学生ほど学内のイベントが年間を通して目白押しのため、学外での活動を行うことに時間や余力をさけないのが実状かもしれないと感じる。また、自家用車を持っていない学生にとっては、移動手段の確保の困難さも一因かもしれない。さらに、最大の原因は、本協議会へ加入することにより生じるであろうメリットを学生へ十分に伝えていない、伝わっていないことかもしれない、と考える。

10名)総勢19名と1社で活動を行った。

第一目標の学生会員数の確保・増加については、2007年度は皆無だった北海道教育大学の学生1名が入会したが、総数では2007年度より1名減少し13名であった。高等技術専門学院は、吹谷理事をはじめとする先生方のご努力で、毎年10名を越える学生会員が確保さ

活動を振り返って

2008年度は、学生事業部担当副会長桑原義彦氏のもと、部長(林拓見)、役員・理事(小川 博・吹谷真一)、会員(阿部秀也・前田英伸・八重樫良二・(株)旭ダンケ)、学生(東海大学:2名、北海道教育大学:1名、旭川高等技術専門学院:

年2回の会報の発行

2008年度の広報事業部の主な活動は、年2回の会報の発行でした。2008年10月に会報18号を、2009年5月に会報19号(当号)を発行しました。原稿をお寄せいただいた皆さん、ありがとうございました。

会報の発行に当たっては、最初に広報事業部のメンバーが集まり、その号の編集内容と執筆者の選定、スケジュールを確認して編集・制作作業が始まります。最も大変なのは、原稿執筆のお願いです。会員の皆さんがそれぞれお忙しいことを承知の上で、原稿のお願いや催促をするのは、なかなか気が重い作業ではあります。いつもメールでお願いしていますが、締切厳守で原稿を送ってくださった方には、感謝感激です!原稿が集まれば、ほぼ出来上がったも同然。その後は、上田会員、下出会員という、



グラフィックデザインのプロ中のプロが仕上げてくれます。

会報は、会員や会員外の方に、ADAの活動をお知らせするという大切な役割を持っています。また、会員自身のプロフィールや活動をアピールできる場でもあります。そのためにも、会報の内容は単なる活動報告だけではなく、読んでおもしろく、また少しでも会員に刺激を与えられる内容を盛り込んでいくべきだと思いますが、これは、今後の課題でもあります。

また、会報の発行以外にも、様々な媒体を使って、広く外部にADAの存在をアピールすることも広報事業部の仕事だと思いますが、これも2008年度は十分に活動できておらず、今後の課題となっております。

吹谷 眞一

北海道旭川高等技術専門学院
造形デザイン科

私は、北海道旭川高等技術専門学院で、造形デザインを指導しています。造形デザインと聞いて、皆さんは何を思われるでしょうか？

私どもの学院は、企業に求められる人材を養成することが求められています。少し前までは、家具を作る職人を育成することを主として来ましたが、時代と共に、企業の求める人材のニーズが変化し、デザインやコーディネート知識も必要とされてきました。

現在では、手工具の取り扱いに始まり、

製図、製作実習を基本とし、色彩概論、造形実習等で、製品の立案から製作までを一貫して訓練しています。

この過程で学生たちが取得する技術の中には、2級技能士(家具手加工、建具手加工)、カラーコーディネーター、インテリアコーディネーター等の資格があります。

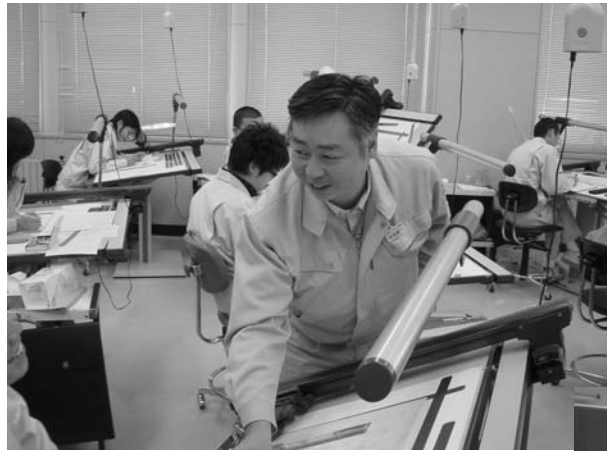
また、毎年行われる技能五輪全国大会(2009年度は茨城大会)、そしてその大会での優勝者が出場できる、2年に1度開催の世界大会(2009年度はカナダ、カルガリー大会)には、この旭川から連続出場を果たしています。

「家具のまち・旭川」といわれます。当然ながら、多くの先人や各企業の努力が

あつての今日ですが、これからの旭川家具を支え、発展させて行くためには、後継者を育てることが非常に重要だと考えられます。学生や企業だけではなく、たくさんの方々に、この存在を知っていただくということも大切な活動です。

先日行われた、ADA展でのワークショップ「MY箸制作」もその一環で、多くの方々に関心を寄せていただきました。小さな木を削り、かたち作ることに真剣に取り組む姿を見ると、人はだれでも物をつくることに興味があるのだ!と、実感しました。

この旭川から「モノ造り人」を世界に送り出したいと思う毎日です。



北海道旭川高等技術専門学院での授業風景

